

## 平成13年度財団法人東洋文庫事業報告書

財団法人 東洋文庫  
理事長 斯波義信

平成14年3月31日現在までに行われた財団法人東洋文庫事業の報告は下記の通りです。

### 事業項目

- I 調査研究
- II 研究資料収集
- III 研究資料出版
- IV 普及活動
- V 学術情報提供

## I. 調査研究

### (1) 一般調査研究

新研究プロジェクト：「地域間比較の手法による伝統的社会の仕組みと展開に関する研究

－東アジア・中央アジア・西アジアを中心に－

平成12年度から4年間は、朝鮮・中国・中央アジア・西アジアを中心に、ユーラシア大陸を東西につらぬくアジア社会をとりあげ、写本・刊本・文書資料等にもとづいて伝統的社会のしくみとその展開を地域間比較の視点から体系的かつ実証的に研究する。

本年度は、特に、朝鮮研究委員会・東亜考古学研究委員会を中心に調査研究を進めた。

#### A) 朝鮮研究委員会 (第3部門)

『朝鮮王朝後期戸籍大帳解題』の作成。

#### B) 東亜考古学研究委員会 (第1部門)

『東アジア都城遺跡研究』の作成。

#### C) 資料購入

区分	和漢書	洋書
数量	483冊	1,540冊

### (2) 特別調査研究

#### A) チベット特別調査研究

[目的] チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

[研究課題] チベット語文語辞典の編纂

[事業内容]；

##### 1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会受入のチベット人研究者の協力のもとに下記の作業を進めた。

- (1) 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂のカードを点検し、目録データベースの作成を継続した。
- (2) チベットの伝統的仏教学の基礎教程について数冊の教科書を選び、チベット人研究者の指導のもとに、分析・研究を進めた。
- (3) 『チベット語文語辞典』編纂の基礎資料としてチベット仏教の基本的文献についてのデータベースの作成を継続した。

##### 2) チベット文献の収集・整理

区分	洋書
数量	2冊

##### 3) 研究成果の刊行

- |                      |     |    |       |
|----------------------|-----|----|-------|
| (1) 『チベット仏教基本文庫』 第7巻 | B5判 | 1冊 | (刊行済) |
| (2) 『チベット特別調査研究年次報告』 | A5判 | 1冊 | (刊行済) |

B) 近代中国特別調査研究

[目 的] 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

[研究課題] 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

[事業内容] ;

- 1) 共同利用研究
- 2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)
- 3) 図書資料の収集・整理

区 分	和漢書	洋 書
数 量	560冊	19冊

4) 研究成果の刊行

- (1) 『近代中国研究彙報』 第24号                      A5判              1冊              (刊行済)

II. 研究資料収集

(1) 一般研究資料収集

A) 資料調査 (図書・資料選択リストカード作成済)

B) 資料交換

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	国 内	国 外	計
単 行 本	1,410冊	613冊	2,023冊	1,003冊	632冊	1,635冊
定期刊行物	2,571冊	676冊	3,247冊	2,576冊	1,690冊	4,266冊
非図書資料	36リール	319リール	355リール	0	0	0
計	4,017冊	1,608冊	5,625冊	3,579冊	2,322冊	5,901冊

C) 資料購入

区 分	和漢書	洋 書
数 量	169冊	41冊

(2) 特別研究資料収集

A) 資料調査 (図書・資料選択リストカード作成済)

B) 資料購入

区 分	和 漢 書	洋 書
中央アジア	133冊	203冊
東アジア	727冊	0
西アジア	0	315冊
マイクロ資料	0	5,949枚
計	860冊	518冊 2種

(3) 研究資料保存整理

A) 補修再製本・製本

1)

区 分	単 行 本		簡易製本
	和 装	洋 装	(和・洋装)
数 量	裏打 2.077枚 111冊	補修 1.919枚 136冊	177冊

2)

区 分	定期刊行物	製帙・保存箱	地図類	その他	整理保存
数 量	1.026冊	178点	97枚	293冊	132点

B) 撮影・焼付

区 分	撮影齣数	フィルム反転	電子複写枚数	整理作業
数 量	38,260コマ	66リール	56枚	12件

C) 『新着図書目録』 第49号 B5判 1冊 (刊行済)

III. 研究資料出版

(1) 一般研究資料出版

A) 『東洋文庫和文紀要』(東洋学報) 第83巻第1, 2, 3, 4号 A5判 4冊 (刊行済)

B) 『東洋文庫欧文紀要』(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*) No.59  
B5判 1冊 (刊行済)

(2) 特別研究資料出版

A) 『宋史食貨志訳註(四)』(東洋文庫論叢62) A5判 1冊 (刊行済) (宋代史研究委員会担当)

B) “*The Diversity of the Socio-economy in Song China 960-1279*”  
(東洋文庫欧文論叢 Toyo Bunko Research Library 2)  
A5判 1冊 (刊行済) (斯波義信研究員担当)

#### IV. 普及活動

##### (1) 講演会

###### A) 東洋学講座

(春 期) 共通テーマ; 科 挙

第461回 平成13年5月15日 (火)

「宋代科挙官僚の選任制度」

東洋文庫研究員  
獨協医科大学教授

渡 辺 紘 良 氏

第462回 平成13年5月22日 (火)

「宋代科挙社会の形成」

早稲田大学教授

近 藤 一 成 氏

第463回 平成13年5月29日 (火)

「清代、被差別民と学校・科挙」

青山学院大学講師

安 野 省 三 氏

(秋 期) 共通テーマ; 「旅と交流」のイスラーム世界

第464回 平成13年10月16日 (火)

「イスラーム世界の旅人たち -イブン・バットゥータの『大旅行記』を読む-」

東京外国語大学アジア・

アフリカ言語文化研究所教授

家 島 彦 一 氏

第465回 平成13年10月23日 (火)

「イスラーム世界における中国美術の伝播

-トプカプ宮殿所蔵『サラム・アルバム』に見る絵画の交流-」

東亜大学教授

ヤマンラール水野美奈子 氏

第466回 平成13年10月30日 (火)

「イブラヒムのユーラシア旅行 -パン・イスラム主義と日本-」

東洋文庫研究員

東京大学教授

小 松 久 男 氏

###### B) 特別講演会

第1回 平成13年10月24日 (水)

“Spoken word and Written text -Modes of transmission of knowledge in pre-modern Islamic Culture.”

(話された言葉と書かれたテキスト -前近代イスラーム文化における知識の伝達方法- )

Prof., Martin Luther Univ.

S.C.H. LEDER 氏

第2回 平成13年10月24日 (水)

“French Studies on Mediterranean Cities.” (フランスにおける地中海都市の研究)

Chercheur, Institut français d'études arabes de Damas

Brigitte MARINO 氏

第3回 平成13年11月13日(火)

「長沙走馬楼三国呉簡の研究とその基本問題 -長沙走馬楼三国呉簡研究の回顧と展望」

中国文物研究所文物古文献考古研究中心研究員 王 素 氏

第4回 平成13年11月21日(水)

「哈佛燕京図書館蔵明代徽州方氏親友尺牘研究」

中国社会科学院歴史研究所研究員 陳 智 超 氏

第5回 平成14年3月1日(金)

「甲骨学研究1978年以降進入了“全面深入研究”的新段階」

中国社会科学院歴史研究所研究員 王 宇 信 氏

第6回 平成14年3月22日(金)

「西洋から見た東アジア医学史」

ドイツ・ゲッティンゲン大学中国学教授 E. ROSNER 氏

## (2) 研 究 会 (東洋文庫談話会)

・平成14年1月25日(金)

「勅令・台帳・抜粹 -18世紀オスマン朝文書行政における情報処理について-」

東洋文庫奨励研究員 高 松 洋 一 氏

(3) 『東洋文庫書報』 第33号 A5判 1冊 (刊行済)

## V. 学 術 情 報 提 供

### (1) 研究者養成

西アジア研究 高松 洋一 (東京大学大学院P.D.)

「オスマン朝における文書諸様式の機能と官僚機構」

中国研究 高瀬 奈津子 (明治大学大学院P.D.)

「中国北朝隋唐時代の仏教と国家・社会の関係」

### (2) 図書・資料の閲覧(協力)等サ-ビス

数量 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
閲覧者人数	188	254	222	271	363	267	308	393	319
閲覧図書数	3,383	3,718	2,720	4,333	7,079	4,582	3,498	5,156	4,734
レファレンス数	62	68	60	73	98	72	83	106	86

1月	2月	3月	計
224	238	261	3,308人
3,136	4,846	3,443	50,628冊
60	64	70	902件

(3) 研究資料複写サービス

A) マイクロフィルム・紙焼写真

区 分	申込件数
数 量	431件

B) 電子複写

区 分	申込件数	焼付枚数
数 量	833件	44.628枚

(4) 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報第82巻4号、第83巻1、2、3号	各400部
Tun-huang and Turfan Documents (Supplement)	80部
The Bordered Red Banner Archives in the Toyo Bunko	80部
西藏仏教基本文献 (6)	50部
近代中国研究彙報 第23号	50部
東洋文庫書報 第32号等2種	各50部

(5) 研究者の交流および便宜供与のサービス

A) 長期受入

1) 国内研究者の受入

2) 平成13年度日本学術振興会特別研究員P.D.の受入

大河原 知樹 (慶応義塾大学大学院P.D.)

「イスラム法廷文書をもちいた中東の家族史研究：19～20世紀初頭のダマスカス」

平成12年度採用、同13・14年度3ヶ年間

森平 雅彦 (東京大学大学院P.D.)

「制度・慣例を通じてみた高麗と元朝の国家間関係」

(平成13年度採用、同14・15年度受入辞退)

3) 外国人研究者の受入

王 其 戈 モンゴル文化教育大学教授

「漢語文献に見られるモンゴル民族を中心とした

中国少数民族に関する関係資料の民俗学的研究」

(平成11年9月1日以降2ヶ年間・私費・受入終了)

SABRY Muhammad エジプト・ヘルワーン大学助教授

「オスマン期エジプトの知と思想 1517～1798」

(平成11年9月以降2ヶ年間・日本学術振興会招聘・受入終了)





Korea

金 吉 植 韓国国立中央博物館考古部主事 [以下、計 12 人]

Mongolia

Ts. Shagdaisurug Dr., National University of Mongolia.

Netherlands

A. J. de Voogt Dr., Research School of Asian, Africa, and Amerindian Studies, Leiden University.

Russia

Genieva Ekaterina Director, M.I. Rudomino State Library for Foreign Literature.

Singapore

Michael W. Charney Prof., Centre for Advanced Studies, National University of Singapore.

Tunisia

Touhami Abdouli Dr., Université des Littres, des Arts et des Sciences Humaines.

Turkey

Ali Akyildiz Prof., Marmara University. [以下、計 5 人]

U.K.

J.P. McDermott Fellow, St. John's College, Faculty of Oriental Studies, University of Cambridge. [以下、計 2 人]

U.S.A

Chistopher Beckwith Prof., Indiana University. [以下、計 10 人]

D) 研究会等への会場提供サービス

数量\ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
研究会等回数	10	22	17	13	10	18	23	28	15
参加人数	87	381	130	126	87	144	471	294	135

1月	2月	3月	計
12	10	15	193回
109	94	161	2,219人

(6) 特定研究資料の収集

(7) 研究資料の補修再製本・製本

(8) 参考情報提供サービス

A) 『東洋文庫年報』 平成12年度版      A 5判      1冊      (刊行済)

(9) 広報普及

# 平成13年度財団法人東洋文庫特別事業報告書

財団法人 東洋文庫  
理事長 斯波義信

平成14年3月31日現在までに行われた財団法人東洋文庫特別事業の報告は下記の通りです。

## 事業内容

### I. 特別調査研究並びに研究成果の編集・整理等

#### (1) 日本学術振興会科学研究費補助金並びにその他助成金による事業

##### A) 平成13年度科学研究費補助金による事業

###### 1) 基盤研究(B)の対象事業

[課題] 「ポストモンゴル期におけるアジア諸帝国に関する総合的研究」 [研究代表者: 志茂碩敏]  
(平成11年度採用3ヶ年間・最終年度)

[目的];

最近の一連の研究により遊牧部族連合国家モンゴル帝国の国家構造が解明された。本研究はポストモンゴル期の諸帝国について、ペルシア語を中心とする西アジア諸語良質写本を利用して考察し、従来の西洋中心史観、イスラム史観に惑わされることなく、その国家構造を解明することを目的とするものである。

[研究実績概要];

- (1) 各分担者は当該帝国関係史料に見られる遊牧国家固有の術語とその用例を整理して当該帝国の国家構造を明らかにするため研究を進めた。
- (2) 各帝国間の国家構造とモンゴル帝国国家構造との比較を通し、ポストモンゴル期の各帝国を匈奴以来の一連の遊牧国家の系列上に正しく位置づけ、その世界史的意義の解明に取り組んだ。

###### 2) 研究成果公開促進費(データベース等)の対象事業

[名称] 「東洋学総合情報システム」 [東洋文庫電算化委員会委員長: 北村 甫]  
(平成6年度以降事業、13年度採用)

[分野] 「アジアの諸言語で書かれた文献およびアジアについて書かれた書籍」

[目的];

東洋学に関する世界有数の研究図書館である東洋文庫の様々な情報をデータベース化し、広く学界に公開するプロジェクト。特に、東洋文庫の所有する貴重な図書資料の総合的な目録データベースを構築し、インターネットを通じて自由にオンライン検索や内容に則したリスト表示ができるようにすることを目指している。さらに館内では、多言語対応のデータベースを構築し、研究者により詳細なデータを公開している。また図書資料のみではなく、特定分野の索引やテキストデータ、目次などを電子データとして提供する。

[事業実績概要]；

アジアの諸国語で書かれた文献（マイクロ・フィルム、マイクロ・フィッシュも含む）について、コンピュータによる将来性・互換性・公共性を考慮したデータの記入法を検討し、東洋文庫所蔵の文献目録・日本における文献の所在目録・詳細な解題目録・研究文献目録・テキストデータベース・各種索引を作成し、電子メディアの形で供給している。平成13年度は、平成6～12年度中に作成したデータベースの継続入力、公開用データベースへの変換、画像データベース、マイクロフィルム・マイクロフィッシュ目録の作成を進めたほか、アラビア語・ペルシア語・中央アジア諸語・チベット語・欧文の新規図書目録、中国文文献目録の作成を継続中である。

### 3) 科学研究費新プログラム方式による創成的基礎研究の対象事業

[統轄・課題]「現代イスラーム世界の動態的研究－イスラーム世界

理解のための情報システムの構築と情報の蓄積－」[研究代表者：佐藤次高]

(平成9年度以降事業・5ヶ年間・最終年度)

[目的]；

本研究の第1の目的は現代のイスラーム世界をその動態において解析することである。ここでいうイスラーム世界とは、いわゆる中東・北アフリカ地域だけではなく、多数のムスリムの居住するロシア・中央アジア・中国・南アジア・東南アジア・アフリカ・ヨーロッパさらには南北アメリカをも含んでいる。われわれは、イスラーム地域が抱える宗教・政治・経済・社会・文化などの諸問題を抽出し、これを地域間比較の手法を用いて総合的に研究した。

第2の目的はこのような研究をとおして新しい地域研究の手法を開発することである。平成13年度は、プロジェクトの最終年度であり、そのために、歴史学・宗教学・政治学・経済学・社会学・人類学などの学問領域を越えた学融合を試みるとともに、上述の地域をさまざまに組み合わせ(例えば、中東とヨーロッパ、中国と南・東南アジアなど)、「イスラーム復興運動」、「市民社会」、「人的ネットワークの機能」など特定のテーマについて具体的な比較研究を実施した。この比較研究では、従来の地域研究に比べると歴史的なアプローチを重視した。歴史的アプローチはどの学問分野にも適合可能であるし、各ディシプリンによる研究成果を総合する上でも有効だと考えるからである。

第3の目的は、国際的な共同研究の基盤整備、地理情報システムの活用、多様なデータベース構築のために、最新のコンピュータ技術の積極的な応用・開発をはかることである。とりわけ詳細な地理空間情報を駆使した社会・経済変動の解析は、まったく新しい試みである。また、多様な言語を用いるアジア研究においては、これまでコンピュータの利用はきわめて不十分であったが、この機会に各研究拠点を結ぶイスラーム地域研究情報システムを構築し、また国内におけるアラビア文字文献の総合データベースを作成した。

このような研究活動を通して「現代思想と政治運動」、「イスラームと民主主義」、「聖者信仰と神秘主義」、「性と文化」、「所有・契約・市場の比較史」、「イスラーム史科学」、「中東・アフリカの奴隷エリート」、「イスラームにおける境域の観念」、「近現代のロシア・中央アジアのイスラームと政治」、「20世紀イスラーム世界の知識人」などをテーマとして、和文叢書(全8巻)および英文叢書(全12巻)を刊行し、今後の研究展開のために基盤づくりを行った。

平成13年度は、本プロジェクトの最終年度であり、10月の東京国際会議 The Dynamism of Muslim Societies: New Horizons in Islamic Area Studies は、イスラーム地域研究の最終成果を内外に提示すると同時に、将来の研究課題を設定することにも貢献した。われわれはこれを本年度の全体集会として位置づけ、これに向けて研究セミナーの開催など十分な準備作業を積み重ねた。

[第6班課題]「イスラーム関係史料の収集と研究」[研究代表者：斯波義信]

[目的]；

東洋文庫に拠点をおく本班は次の2点を目的にイスラーム地域研究に用いられる史資料の収集・研究を行う。

- (1) まず、本班は研究プロジェクト全体の「資料室」としての役割を担い、前近代イスラーム地域研究に必要な各種資料をひろく収集した。さらに収集された図書出版物の有効利用のため、図書情報のデータベース化、オンライン情報提供を行った。
- (2) イスラーム地域の歴史史料への理解を深め、それらを効率的に利用するための基礎的研究を実施した。ここでは主に写本や文書などの歴史一次史料を対象とする。本研究では、歴史文書や写本がもつ固有の構造を史料学的に検討することを通じ歴史的なイスラーム地域の基層構造に光をあてることをめざした。

[研究実績概要]；

(1) 前近代イスラーム関係資料の収集と図書情報のデータベース化

本年度も、前年度にひきつづき前近代イスラーム関係資料の系統的な収集を継続した。収集資料は図書を中心とするが、マイクロフィルム、電子出版物などの収集も積極的に行った。収集した資料の図書データは、各言語の固有文字をもちいてデータベース化を進めた。東洋文庫では永年にわたり多言語図書情報データベースの構築にとりくんできたが、その技術をここに利用している。構築されたデータベースは、CD-Rom版東洋文庫所蔵カタログに収録され、プロジェクト参加者に頒布した。また、東洋文庫の所蔵データベースと合体した上で、インターネット上でのオンライン検索による当該データベース利用を促進している。

(2) 歴史史料に関する史料学的研究

写本、文書史料を用いた研究は端緒についたばかりであるとゆう現状に鑑み、本班ではペルシア語文書、オスマン語文書(政府文書、法廷文書、テメトゥアート台帳など)、宮廷儀礼に関するアラビア語写本などに関する研究会・ワークショップ・セミナーなどを実施し、これらの史料群にたいする理解を深めることをめざすことにつとめた。

(3) イスラーム地域研究へのコンピュータ利用に関する研究

本班では、(1)(2)の各活動を支援することを主な目的に、アラビア語と日本語を中心とした多言語環境、アラビア語図書情報オンライン化、イスラーム地域研究に有効なインターネット利用などのテーマに関する情報収集と研究を積極的に推進した。イスラーム地域研究者のニーズと技術的な現状との接点を明らかにすることがここでの目的である。

[平成13年度の具体的研究実施内容]；

- (1) 中東諸国に加え、南アジアおよび中央アジアで、ムスリム関係図書の収集につとめた。データベースの作成、公開を引き続き行った。
- (2) アラビア文字系文献データベース連絡会および、共通データベース作成作業班の活動を継続実施した。またプロジェクト終了後も作業を継続できる体制づくりを整備した。
- (3) 成果のとりまとめにむけて、各研究会ごとの総括的研究会を実施した。
- (4) 最終年度の国際シンポジウムにおける6班担当セッション、"Contract, Validity, documentation"を組織し、そのための招聘を行った。
- (5) 成果の公刊を準備した。具体的には、欧文叢書として刊行予定のThe Ottoman State and Local Societies in Change、ならびにStudies on Persian Archivas Sources、訳註書『カリブ宮廷の儀礼』の編集作業を行った。

4) 基盤研究(C)の対象事業

[課題]『『翻訳名義大集』における梵・藏・蒙・漢語仏教語彙の基礎的研究』

[研究代表者；福田洋一]（平成12年度採用・2ヶ年間・最終年度）

[目 的]；

『翻訳名義大集』は、古代チベット王国において梵語仏典をチベット語訳するに際しての訳語の基準を定めたものとして編纂された梵・蔵対照仏教語彙集である。約9000の項目が内容別に分けられて収録されており、チベット語仏教用語に対応するサンスクリット語を知る上で、もっとも信頼のおける資料である。本研究申請者2名は、チベット大蔵経四版(梵・蔵対照のナルタン版、北京版、デルゲ版、チョーネ版)および、モンゴル大蔵経(蔵・蒙対照の北京版)、ペテルスブルグ写本(梵・蔵・蒙・漢対照)を対校した『新訂翻訳名義大集』(東洋文庫、1989)を刊行した。しかし、同書には、漢訳語の欠如、新たな写本チベット語大蔵経の刊行、索引の欠如、モンゴル文字転写の誤読、他の仏典資料との比較をしていないなど、文献学的には不十分な点が多々あり、そのままの形で再刊することは留保してきた。本研究は、以上の問題点を解消し、梵・蔵・蒙・漢にわたる仏教語彙研究を集大成した決定版『翻訳名義大集』を作成するための基礎研究を行う。

[研究実績概要]；

- (1) チベット語の新発見の写本大蔵経(『金写丹珠爾』)を対校することにより、より正確なチベット語校訂を継続した。
- (2) 中世モンゴル語の研究成果に基づき、モンゴル文字転写を見直し、その際、モンゴル語とチベット語を、語の構成要素にまで分解して対応させた索引を作成し、不明瞭なモンゴル語の表記を統一的に読解できるように整理した。
- (3) 仏教サンスクリット語の語彙については、前回はチベット大蔵経の読みをほぼそのまま採録したにとどまり批判的校訂が十分ではなかったので、最新の仏教研究の成果を参照し、サンスクリット語の批判的校訂を実施した。
- (4) 漢訳語の調査を継続した。上記写本に含まれる中国語訳は、必ずしも伝統的な漢訳語ではなく、当時の中国語で新たに翻訳したものが付されていることが多いので、新たに調査した。
- (5) 最近10年間に各種の仏教文献の索引が多数刊行されたので、それらを参照し、批判的校訂の資料とすることにつとめた。
- (6) 前著をもとにデータベースを構築し、校訂作業をコンピュータ上でやっている。
- (7) 成果は、データベースから自動的に電子テキストとして作成し、検索の便を図ることにつとめた。

B) その他の平成13年度研究助成金による事業

1) 三菱財団人文科学研究助成の対象事業

① [課 題]「サンクト・ペテルブルグ所蔵内陸アジア出土文書の総合的研究 III」

[研究代表者；佐藤次高]（平成12年10月～同14年9月・2ヶ年間）

[目 的]；

1900年、中国甘肅地方の敦煌において、5世紀初めから11世紀までの文書群約6万点が発見された。これは中央アジア諸民族の興亡と中国の漢族との関係など、従来の歴史研究の空白を一挙に埋める今世紀最大の原文書の出現である。その文書の内容は、仏教文化を伝承した敦煌にふさわしく仏典の写本が最も多いが、敦煌を含む内陸アジア出土の文書には、各宗教の教典、文学、歴史書、行政・軍事関係の公文書、寺院関係などの私文書、暦、医薬書など多種多様である。

ところが、発見より10年ほどの短期間に、これらの文書はイギリス、フランス、ロシア、中国、日本など世界各地に四散秘蔵される結果となった。東洋文庫は、敦煌文献研究センターとして、既にロンドン、パリ、北京にある敦煌文書のマイクロフィルムを組織的・網羅的に収集して多くの研究成果を公表し、内外の

研究者に貢献してきた。今回は、交渉の結果、世界にさきがけて唯一未収集のロシア科学アカデミー東洋学研究所St・ペテルブルグ支所蔵敦煌等文書をマイクロネガフィルム化することが可能になった。同文書には、漢文文献のほかにチベット語、ウイグル語、西夏語、ソグド語、コータン語、サンスクリット語、満洲語、モンゴル語などアジア諸言語の文献を含んでおり、内陸アジア諸民族の歴史、言語、宗教、文学などについて、より一層の総合的研究の推進に大きく寄与するものと確信する。

[事業実績概要]；

東洋文庫では、1953・4年に大英博物館所蔵A. スタイン卿将来の敦煌文書約8,000点をマイクロ化して収集して以来、敦煌文献研究センターとしてその資料を一般に公開し、共同研究を実施してきた。世界の敦煌等文書収蔵主要4か国のうち、今日までにロンドンの大英図書館（旧インド省図書館の敦煌等文書を含む）約16,000点（92,000齣）、パリ国立図書館約7,000点（54,000齣）、北京図書館約9,000点（13,000齣「一説に約16,000点現存とも言われる」）のマイクロフィルムを収集し、それらを広く日本および世界の研究者の利用に供するとともに、多くの研究成果を発表してきている。

そこで、本プロジェクトでは、世界屈指の内陸アジア将来文書を保有するロシア科学アカデミー東洋学研究所St.ペテルブルグ支所蔵の非公開文書約19,000点・約250,000齣におよぶ歴大な量のマイクロフィルムを収集することを最大の成果と考えている。

1996年4月の東洋文庫とロシア科学アカデミー東洋学研究所St.ペテルブルグ支所との契約調印に基づき、5・6世紀～19世紀頃の内陸アジア関係文書のオリジナル・ネガフィルム撮影および調査研究プロジェクトは、当初の収集計画約25万齣の中、三菱財団学術助成金等の諸経費により、2002年2月現在、355Reels 232,468齣を東洋文庫に将来することができた。

そのネガフィルム化された内陸アジア諸言語の内訳は、11～13世紀のタングート(西夏)語約70,000齣、6～14世紀に活躍したトルコ系・イラン系民族のウイグル・コータン・ソグド等の諸語約14,000齣、サンスクリット語・チベット語約18,000齣、モンゴル語約12,000齣、満州語約30,000齣、5～13世紀頃の敦煌・トルファン等発見の漢文文書約32,000齣、ペルシア語約18,000齣、13～16世紀のチャガタイトルコ語約16,000齣、アラビア語約20,000齣である。本プロジェクトのマイクロ化事業は、最終段階を迎えているが、なお未だ、既収フィルムの中、撮影漏れ等文書約20,000齣の追加収集することによって、総合的研究の基盤を達成することになる。

## ② [課 題] 「イスラーム法廷文書の社会史的研究」

[研究代表者：三浦 徹]（平成11年10月～同13年9月・2ヶ年間）

[目 的]；

イスラーム法廷文書には、婚姻や相続、売買・賃貸借、債権・債務といった日常の各種の契約が記録され、オスマン朝時代のトルコ、シリア、エジプト地域の諸都市で記帳された数万冊の法廷台帳（15-20世紀）は、住民の社会生活の細部までを照らす史料の宝庫といえる。

従来の法廷文書を用いた研究では、このような「法廷」の記録としての特性が見過され、社会経済のデータだけが独り歩きしていた。本研究では、史料学的分析、法学的検討、データベースを用いた統計的分析を総合し、地域社会のメカニズムを解析することをめざす。

[事業実績概要]；

(1) 「法廷関係資料の調査」；今年度は、シリアのハマー県の人工問題に関する調査のため、総理府オスマン古文書館(イスタンブル、トルコ)、ダマスカス歴史文書館（シリア）などにおいて、16世紀の徴税台帳、スルタン勅令台帳、イスラーム法廷文書台帳の調査を行った。

(2) 「史料のデータベース化」；そこで、今年度は、アラビア語、オスマン・トルコ語の法廷文書台帳のテキ

スト化を行った。その一部は、ホームページに掲載するため準備中である。

(3)「成果とその公表」;

①シンポジウム「イスラーム法廷の世界」において、「イスラーム法廷と地域社会：裁判官、公証人、住民」および「オスマン朝における財務行政からみた法廷の役割」の報告を行った。

②国際ワークショップ「オスマン・イスラーム法廷文書ワークショップ（ハーヴァード大学中東研究所、中東社会文化史協会共催、米国ハーヴァード大学）に参加して、イスラーム法廷文書の普遍性と多様性を明らかにするために、オスマン朝時代の法廷文書につき集中的に討議を行った。本研究班は、ダマスクスのサーリヒーヤ法廷の台帳をもとに、18-19世紀の変化について報告した。

以上、本研究は、法廷文書という定式化された大量の文書群から、イスラーム社会のあり方を読み解くことをめざしてスタートした。上記の視点にたつことで、資料群の史料学的検討や統計的分析から、法廷の社会的機能、地域社会の秩序を明らかにする道を拓いたと評価するものである。

(以下、略)

(2) 各研究委員会による収集資料の整理・研究並びに研究成果の編集等

A) 東亜考古学研究委員会

- ① 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真、実測図、拓本、野帖等）の整理とその目録の作成。
- ② 「東アジア都城遺跡研究」の作成。（以上、前年度の継続）

B) 古代史研究委員会

- ① 中国古代都市研究会の開催。
- ② 中国古代史研究会（中国古典籍の読書会）の開催。
- ③ 「東アジア都城遺跡研究」の作成協力。（以上、前年度の継続）
- ④ 『晋書食貨志訳註』の作成。
- ⑤ 東洋文庫所蔵中国画像銘、造像銘、墓碑銘拓本の整理研究。

C) 唐代史（敦煌文献）研究委員会

- ① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。
- ② 内外の諸機関・研究者に対する既取敦煌等文献及びそれらの研究成果の公開・情報の提供。
- ③ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集及びそれらに引用された出土文書番号の採録カード（研究文献目録補遺）の補充。
- ④ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。
- ⑤ 日本現存中国拓本研究会の開催。（以上、前年度の継続）

D) 宋代史研究委員会

- ① 『宋史食貨志訳註(五)(六)及び総索引編』の作成。
- ② 『朝野類要訳註』の作成。
- ③ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項(地名、一般)語彙索引作成。（以上、前年度の継続）
- ④ 宋代研究文献目録及び速報の作成。

E) 明代史研究委員会

- ① 明代社会経済等に関する文献の講読および研究会の開催。（前年度の継続）

F) 清代史（満蒙）研究委員会



- ① 「東洋文庫所蔵満文檔案」の整理・研究。(隔週、研究会の開催)
- ② 各国所蔵の満洲語文献の総合的調査・研究。(以上、前年度の継続)

G) 近代中国研究委員会

- ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。
- ② 近現代中国関係資料の収集、整理。
- ③ 中国調査資料研究会の開催。
- ④ 日中現代史研究会の開催。(以上、前年度の継続)

H) 日本研究委員会

- ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題(IV)(V)(VD)』の作成。(前年度の継続)
- ② 日本関係洋書解題目録の作成。

I) 朝鮮研究委員会

- ① 『朝鮮王朝後期戸籍大帳解題』の作成。(前年度の継続)
- ② 漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。
- ③ 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

J) 中央アジア・イスラム研究委員会

- ① イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。
- ② ロシア所蔵中央アジア古代語文献の総合的研究。
- ③ イスラム社会の構造の研究。
- ④ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。(以上、前年度の継続)
- ⑤ 隊商貿易史の研究。
- ⑥ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

K) チベット研究委員会

- ① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。
- ② チベット学に関する研究会の開催。(以上、前年度の継続)

L) 南方史研究委員会

- ① 東南アジア・南アジア関係歴史言語資料の調査・収集・研究。(前年度の継続)
- ② タイ語関係研究資料の整理、目録の作成。
- ③ 辻文庫目録(3)、荻原文庫目録のIndexの作成。

# 平成13年度財団法人東洋文庫特定事業報告書

財団法人 東洋文庫  
理事長 斯波義信

平成14年3月31日現在までに行われた財団法人東洋文庫特定事業報告の概要は下記の通りです。

## 事業内容

[事業名] 東南アジアを中心としたアジア関係資料データベース化プロジェクト

[プロジェクト代表: 斯波義信]

[期間] 平成13年度～同17年度(5ヶ年計画)。

当初予定された事業は完了したので、新たに東南アジア関係の資料のデータベース化事業を推進する。

[目的] 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するためであったが、当初予定の事業を終えたので、今後は広く東南アジアを中心としたアジア関係資料の公開も含め、データベース化事業を推進することを目的とする。

[事業] アジアを中心とした資料の整理公開のためのデータベース化事業を進めた。

# 平成13年度ユネスコ東アジア文化研究センター事業報告書

財団法人東洋文庫附置

ユネスコ東アジア文化研究センター

所長 石井米雄

平成13年度ユネスコ東アジア文化研究センターの諸事業の概要は下記の通りです。

## 事業項目

### I ユネスコ協力事業

### II 学術情報事業—アジア・北アフリカ人文・社会科学関係—

1. “Asian Research Trends” の編集・出版
2. 国内外研究情報の収集

### III コンピュータネットワーク事業

1. 研究情報データベースの作成
2. コンピュータネットワークの形成

### IV 重要文献の研究・保存事業—アジア重要文化財（文献）の研究・保存—

1. アジア史料の研究・保存

## 事業内容

### I ユネスコ協力事業

#### (1)「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる「中央アジア文明史」シリーズについて、本部から編集委員の委嘱を受けた梅村坦氏（専門委員、中央大学教授）を中心として組織した「中央アジア文明史編集協力委員会」（委員9名）を通じて、同シリーズ第5巻・第6巻（16世紀－20世紀）の編集に協力した。

#### (2)参加事業計画

ユネスコ本部の参加事業計画 UNESCO Participation Programme 2000-2001 に「Asian Research Trends の編集・出版」（監－1）事業をもって参加した。

#### (3)「日本の哲学・思想」情報提供

日本ユネスコ国内委員会編『日本の思想』シリーズ全11巻（英文“Philosophical Studies of Japan” 日本学術振興会 1959-1976 年刊）について、インターネット上で和文・英文によって紹介するため、ウェブサイト（ホームページ）を東洋文庫のウェブサイト内で公開した。

### II 学術情報事業－アジア・北アフリカ人文・社会科学関係－

#### 1. “Asian Research Trends” の編集・出版

英文の定期刊行物“Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review” No. 12 の編集・出版を行なった。

なお、本事業をもって「ユネスコ参加事業計画」（特－(2)）に参加した。

#### 2. 国内外研究情報の収集

##### (1)国内研究情報の収集

いわゆる「東洋学」の関連研究分野における研究機関のネットワーク形成を推進するため、主要なアジア研究機関、学会、および日本学術会議等との間に、相互の訪問・通信等による研究情報の交換を行なった。また、研究機関が発行する要覧・紀要等を収集した。

##### (2)国外研究情報の収集

###### A. 国外研究機関の訪問調査

本年度調査国の研究機関、研究状況等についての資料を収集し、アジア関係研究機関の訪問調査を実施した。その対象国・派遣調査員・調査期間は下記の通りである。

大韓民国	藤井和夫（センター運営委員、日野市教育委員会生涯学習課副主幹）	4月26日－5月7日
	大井 剛（センター調査外事室長）	同 上
	藤井和夫（前出）	7月27日－8月4日
	大井 剛（前出）	同 上
	藤井和夫（前出）	11月 2日－11月11日
	大井 剛（前出）	11月 4日－11月11日
	藤井和夫（前出）	1月 4日－1月 7日
	大井 剛（前出）	同 上

本調査は、韓国に関する継続調査として行なわれ、ソウル、大邱、慶州、釜山、光州、扶餘、公州、済州所在の研究機関を訪問した。あわせて、国立中央博物館において「『朝鮮植民地期文化財調査報告書』の

編集・出版「(協-1-(3)) 事業のための調査研究を行なった。

中華人民共和国 三山 陵 (センター共同研究員、日中藝術  
研究会主任研究員)

三山 陵 (前出) 3月14日 - 3月26日

本調査は、中国に関する継続調査として行なわれ、上海および北京所在の図書館の訪問調査、また開封における印刷技術の調査研究を行なった。

ベトナム社会主義共和国 三山 陵 (前出) 10月5日 - 10月22日

本調査は、ベトナムにおける印刷文化に関する継続調査として行なわれ、ハノイ市およびその近郊所在の文化財とくに文献・印刷技術資料の調査研究を行なった。

#### B. 講演会・研究会の開催

諸外国の研究情報を得、国内研究者との交流を図るため、下記の講演会を開催した。

李 熙 濬 大韓民国 慶北大学校人文大学考古人類学科教授

主題：新羅 装身具の新解釈

期日：10月2日 (火)

会場：東洋文庫講演室

下記の研究会を開催した。

王 嗣 洲 中華人民共和国 旅順博物館研究員

主題：遼東半島考古学研究の新成果

期日：11月28日 (水)

会場：東洋文庫講演室

共催：東北亜細亜考古学研究会

#### C. 外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

センターを訪れ、またはセンターが情報提供等の便宜供与を行なった外国人研究者は下記の通りである。

de Voogt, A.J.	International Relations, School of Asian, African, and Amerindian Studies, Universiteit Leiden, The Netherlands
Mairi Arbuckle Araki	Post Graduate Student, Edinburgh University, United Kingdom
Proshan, Chester	Assistant Professor, School of Literature, Bunka Women's University, Japan
金 吉 植	国立中央博物館考古部、ソウル、韓国
呉 永 贊	国立中央博物館遺物管理部、ソウル、韓国
李 泰 鎮	ソウル大学校人文大学教授、ソウル、韓国
白 忠 鉉	ソウル大学校法科大学教授、ソウル、韓国
鄭 印 燮	ソウル大学校法科大学教授、ソウル、韓国
李 賢 恵	翰林大学校人文大学、春川、韓国
許 英 蘭	国史編纂委員会研究士、果川、韓国
Sahin, Ilhan	Assistnt Professor, Faculty of Letters, Istanbul Universitesi, Turkey
Dhiravat Na Pombejra	Lecturer, Department of History, Faculty of Arts, Chulalongkorn University, Thailand
Leng Ten Moi(林冬妹)	Librarian, University Kebangsaan, Malaysia Library,

## Malaysia

### D. フランス国立極東学院東京支部との協力

財団法人東洋文庫内に平成6年4月に設置されたフランス国立極東学院東京支部との協力関係を確立するため、相互の交流を推進した。東京支部代表は同学院研究員 ジャン-フランソワ・スーム氏である。

#### (3)海外専門家の招聘

学術交流を目的として海外の専門家を下記の通り招聘した。

李 熙 濬 大韓民国、慶北大学校人文大学考古人類学科教授

9月24日－10月8日 韓国考古学・歴史学に関する日韓の相互理解をはかるため招聘した。東京および北海道、群馬・長野・山梨の各県において遺跡・博物館等の視察、研究交流を行なった。

学術交流を目的として来日中の海外の専門家を下記の通り国内において招聘した。

金 在 弘 大韓民国、国立全州博物館学藝研究官

10月20日－10月26日 石川県立歴史博物館の招きにより来日中、韓国考古学・歴史学に関する日韓の相互理解および日本考古学・歴史学に関する情報交換を行なうため招聘した。長野・群馬・東京・奈良・京都の各都府県において遺跡・博物館等の視察、研究交流を行なった。

王 嗣 洲 中華人民共和国、旅順博物館研究員

11月27日－11月28日 神奈川県立歴史博物館における特別展のために来日中、中国考古学・歴史学に関する日中の相互理解および東北アジア考古学・歴史学に関する情報交換を行なうため招聘した。横浜、東京において博物館および関係機関を視察し、研究交流を行なった。

## Ⅲ コンピュータネットワーク事業

### 1. 研究情報データベースの作成

#### (1)国内研究者ディレクトリの編集・出版

研究者名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成を行ない、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。情報はすべてコンピュータ入力し、データベース化している。

対象分野は、①アジア歴史学、②アジア言語文学、③印度学仏教学、④中国学、⑤韓国・朝鮮学である。

#### (2)国内研究文献目録の編集・出版

研究文献目録の編集を進めるため、資料の収集を行なった。情報はすべてコンピュータ入力し、データベース化している。対象分野は①中央アジア研究文献、②中東イスラーム研究文献である。

### 2. コンピュータネットワークの形成

#### (1)東洋文庫ホームページによる情報提供

同ホームページにおいて、下記の研究文献目録のデータベースを公開した。

A「日本における中央アジア関係研究文献目録」

B「日本における中東・イスラーム研究文献目録」

#### (2)国立情報学研究所への情報提供

国立情報学研究所の情報検索サービス(NACSIS-IR)に下記の研究文献目録および研究者ディレクトリのデータを提供した。

A「日本における中央アジア関係研究文献目録」

B「日本における中東・イスラーム研究文献目録」

C「日本におけるアジア歴史研究者ディレクトリ」

D「日本における印度学仏教学研究ディレクトリ」

7月9日に上記のうちBのデータを、11月21日に上記のうちDのデータを更新した。

IV 重要文献の研究・保存事業 ―アジア重要文化財（文献）の研究・保存―

1. アジア史料の研究・保存

(1)「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集・出版

フランス国立極東学院（E F E O）所蔵のベトナム漢文史料『国朝処置萬象事宜録』を写真複製し、原典の歴史学的研究を行なった。本書は、19世紀初頭のタイ・ラオス外交に関するベトナム漢文史料『国朝処置萬象事宜録』鈔本2巻の本文を英訳し、解説と注釈とを付したものである。注釈者はマユリ・ガオシヴァトゥン氏およびパイバン・ガオシヴァトゥン氏である。

また、ベトナム文化、とくに印刷技術に関する史料の調査研究を実施した。

(2)「繊維考古資料の研究」の編集・出版

同書の編集を進めた。著者は布目順郎京都工芸繊維大学名誉教授である。

(3)「朝鮮植民地期文化財調査報告書」の編集・出版

同書の編集を進めた。本書は朝鮮総督府時代に実施された文化遺跡等の調査のうち未報告の資料について「朝鮮古蹟研究会遺稿」として編集するものである。編著者は有光教一高麗美術館研究所所長・京都大学名誉教授ならびに藤井和夫実践女子大学講師である。

(4)ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及